

きょういく・さど



令和7年12月8日
佐渡市教育委員会
学校教育課

地域とともに歩む学校教育

学校教育課長 計良 好昭

令和7年度も折り返しを迎える、各学校では子どもたちの学びが深まり、成長の足跡が確かなものとして感じられる季節となりました。佐渡市では「豊かな人生と佐渡の未来を切り拓く人」の育成を目指し、学校教育の充実に取り組んでおります。

特に、佐渡の自然・文化・歴史を活かした「佐渡学」やキャリア教育の推進、ICTを活用した個別最適な学びの実現、そして探究的な学びを通じた思考力・表現力の育成など、子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育活動が、各校で力強く展開されています。

また、不登校やいじめへの対応強化として、1人1台端末を活用した「心の健康チェックアンケート」や、地域未来塾による学習支援、学校再編による教育環境整備など、子どもたちが安心して学べる環境づくりを進めております。これらの施策は、教職員の皆様の熱意と創意工夫、そして地域の皆様の温かなご支援によって支えられています。

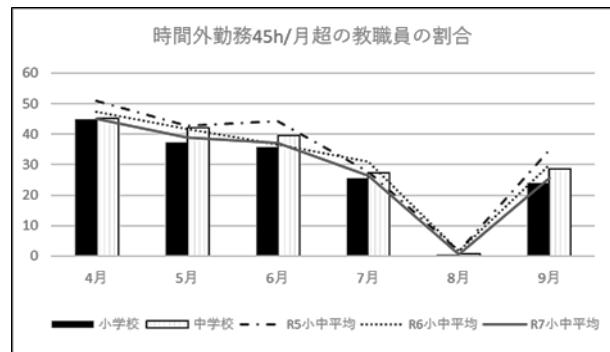
加えて、すべての学校に設置されている学校運営協議会では、保護者や地域の皆様と学校が一緒になって、教育活動の方向性について話し合いを重ねています。地域の皆様の知見や経験を学校教育に活かすことで、子どもたちにとってより豊かな学びの場を創出していきましょう。

今後も、学校・家庭・地域が一体となり、佐渡の子どもたちの健やかな成長を支えていくことが、私たち教育行政の使命であると考えております。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

前期働き方改革推進プラン取組結果から

管理主事 野口 幸雄

令和7年度前期働き方改革推進プランの取組結果についてお知らせします。各学校における取組により、グラフのとおり、超過勤務時間の割合を見ると年々着実に減少しています。



しかし、依然として小中学校ともに平均すると約3割の教職員が超過勤務時間45時間を超えています。また、「多忙化、多忙感が軽減されたか」の項目では、前年度より数値が下がっており、多忙感をもつ教職員の割合は増えていると言えます。

	R5 前	R5 後	R6 前	R6 後	R7 前
多忙化	3.45	3.47	3.47	3.49	3.27
多忙感	3.57	3.64	3.62	3.53	3.29

各学校によって実態が異なるので一概には言えませんが、超過勤務時間は削減されたものの、多忙化が緩和されたという実感が伴っていない状況が一定程度あることがわかります。

佐渡市教育委員会では、働き方改革の推進の一助として、今年度①新年度準備を確保するための学校管理規則の一部改正、②スクール・サポート・スタッフの配置、③休日の部活動地域展開（月3回実施）等を行っています。

このたび、給特法等の一部を改正する法律が成立し、令和8年度より、①働き方改革の一層の加速化、②教職員定数など指導・運営体制の改善、③処遇改善を一体的に進めていくことになりました。（詳しくは、右記QRコード参照）



各学校におきましても、地域や保護者のご理解、ご協力を得ながら、教師でしかできない業務に集中できるよう、チーム学校の実現に取り組むとともに、教職員が「働きがい」「働きやすさ」を実感できるような環境づくりを進めてくださいますようお願いいたします。

『ひろげよう みんなニコニコ 笑顔の輪』

教育指導主事 水谷 武

今年で 12 回目を迎えた佐渡人権展が佐和田地区を会場に開催されました。

そこでは毎年、市内全小中学校が取り組む人権教育、同和教育の実践報告をまとめ、パネル展示しています。ご覧になった市民の皆様からは、「小中学校の取組がよく分かった」などの声が寄せられています。

ある学校では、思いやりの心を育てることをねらい、友達に向けて書いた「ありがとうレター」を校内に掲示する活動に取り組んでいます。取組をとおして、友達の良いところを伝えたいと願う児童が多いことが分かり、一人一人が自分の思いを表現する場の設定に一層力を入れていきたいとしています。

また、同じような取組を行っている学校からは、寄せられたメッセージを昼の放送で全校に紹介するなどの工夫を加えたり、地域の来校者が進んで児童に向けたメッセージを書いてくれたりするなど、地域住民が取組に参画している報告もありました。

さらに、いじめ見逃しゼロ集会の活動報告では、児童会が演じるいじめ場面の劇を基に自分が取るべき行動を考え、グループ内で共有したり、小中学校が連携して一堂に会し、「どうしたらいじめを予防できるか」などのテーマを設定し、小中学生合同の縦割り班と一緒に考えたりした学校がありました。

タイトルにある『ひろげよう みんなニコニコ 笑顔の輪』は、ある学校のいじめ見逃しゼロ集会で披露された標語の一つです。どの学校の報告からも、児童生徒がより良い学校生活を目指し、互いの人権を尊重しようとする様子が伝わってきて、とても嬉しくなりました。



NEXT GIGA 端末 iPad の導入

指導主事 田中 良樹

- ・端末のログインや操作に時間がかかる。
- ・カメラの性能が悪くて使いづらい。
- ・活用場面が分からない。

(令和6年度1月実施「佐渡市ICT活用状況調査」より)

上記のコメントは、昨年度末に佐渡市教委が実施したICT活用状況調査において、授業で端末をあまり活用していない理由として回答されたものです。あくまでも回答の一部ですが、起動の遅さやカメラ性能の低さは、第1期のGIGA端末においては否めませんでした。

しかし、今月に各学校に納品された第2期のGIGA端末であるiPadは、起動の速さ、直感的な操作性のよさ、高性能カメラなど、様々な面で使いやすい端末です。加えて、児童生徒一人一人にタッチペンも貸与されます。

「活用場面が分からない」という声も一部あります。個別最適な学びの実現において、iPadの活用がとても有効なツールになり得ることは様々な実践からも明らかです。ぜひiPadを存分に活用し、子どもたちの学びをより豊かなものにしていただきたいと思います。

ICT活用が得意な先生方、どんどん使っていってください。そして、活用するよさを自校の先生方、他校の先生方にどんどん広げていってください。ICT活用が得意でない先生方、どんどん使っていってください。「教師が使えるようになってから児童生徒に使わせる」のではなく、「児童生徒と一緒によりよい使い方を考えていく」という心構えをもつことが大切です。

これから時代を生きる子どもたちの未来のために、1人1台端末を使わない理由を探すのはもう終わりにしましょう。「活用する」段階から「より有効に活用する」段階へとアップグレードすることが求められています。



進級・進学を意識した取組を 2学期末の12月ではありますが、進級・進学を見据えた年度末への入り口としても、大切な時期です。小学校では6年生を送る会、中学校では生徒会選挙や3年生を送る会に向けて準備等が進んでいることだと思います。今年度も残すところ4か月を切りました。児童生徒個人としても、学年や学級の集団としても成長する時期となりますよう、よろしくお願ひいたします。